

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな自己実現を促す学校
--------	------------------------------



重点目標	1 学びの価値を見出し、生き活きと学習する生徒を育成する。 2 「安全・安心」への意識やスキルを高め、体制を強化する。 3 学校運営協議会を軸とした、地域とともにある学校を推進する。 4 明確な目標をもち、自己の資質向上をめざす教職員を育成する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	(現状) ○落ち着いた態度で授業に臨み、課題に熱心に取り組んでいる。 ○グループ活動等においても、友達と生き活き取り組む生徒が多い。 ○全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査においては、各教科において概ね平均的な結果である。 ○質問紙調査における結果は、概ね良好な結果である。 (課題) ○学力調査等において、自分の意見をまとめ、発信する力に課題が見られる。 ○家庭学習の取組(内容・習慣等)に個人差があり、全体的に課題が見られる。	・実社会や実生活との関わりを実感できる授業実践 ・学びの定着及び深化を図る家庭学習の実践	①各教科の見方・考え方を働かせ、さいたま市学びの「じしやく」に基づく生徒主体の授業を実施する。 ②各学年の「STEAMS TIME」のPBLにおいて、実生活や実社会と関連した課題を設定し、教科等横断的な学習活動により探求学習を実施する。 ③第2学年「未来くるワーク」を軸とし、学校全体のキャリア教育のキャリアラムマネジメントを行う。	①アンケートによる生徒の評価及び学校評価による教職員の評価が、向上しているか。 ②机上の学習に留まることなく、実社会と関わりをもちながら探求学習を進めることができたか。 ③第2学年において新しい「未来くるワーク」を実践し、第1・3学年との系統性を構築することができたか。	①生徒アンケート「授業に自ら積極的に取り組んでいますか」は4ポイント上昇し、教職員評価は0.9ポイント下回った。 ②「STEAMS TIME」では全学年が学校外での活動や外部との関わりをもちながら、教科等横断的に探求学習を進めることができた。 ③浦和レッドダイヤモンズ株式会社の御協力により、新しい「未来くるワーク」を実施して「STEAMS TIME」に発展させ、本校としての3年間の系統性がより充実した。	A	次年度は、「STEAMS TIME」開始から3年目を迎える。また、今年度より始めた浦和レッドダイヤモンズ株式会社との「未来くるワーク」も2年目となることから、「STEAMS TIME」における3年間のストーリーや各教科等との関連とともに、キャリア教育の視点も加えて、実社会や実生活との関わりを実感できる学びを深めていく。	・落ち着いた態度で授業に取り組む生徒が多く、成果も良好である。 ・STEAMS TIMEの取組はとてもよいと思っているので、保護者にもっと理解を深めていただくために、時間をかけて発信し続けて欲しい。 ・STEAMS TIMEで3年間の系統性が充実していたので、継続して進めてほしい。	
2	(現状) ○7割以上の生徒が自転車で通学しており、登校中の事故により救急搬送されるケースもある。(体の安全) ○令和4年度学校評価生徒アンケートにおける「楽しく学校生活を送っていますか」の項目について93%、「先生方はいじめのない楽しい学校づくりに努めていますか」の項目について97%が肯定的な回答だった。(心の安全) (課題) ○交通量が多い、防犯上の危険があることに加え、大幅な生徒像が見込まれるなど、安全な登下校は喫緊の課題である。 ○ポストコロナ禍において、生徒が心を安定させ、安全・安心な学校生活を送ることができる体制づくりが求められる。	・安全意識と行動スキルを高めるための、生徒が主体的に取り組む安全に係る教育活動の実践 ・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添う校内体制の充実	①生徒会組織等を軸とし、生徒主体となった取組を実施する。 ②「STEAMS TIME」の第1学年において、交通安全に焦点を絞ったPBLを実施し、自分自身が美園地区の安全・安心をつくる一員であることの自覚を深める。	①委員会活動等において、生徒が主体となった「安全・安心」に係る取組が実施されたか。 ②第1学年の「STEAMS TIME」において、実生活に結び付いた探求学習を行い、発信することができたか。	①安全委員会生徒による呼び掛けやヘルメット点検等を行った。今後、並列走行撲滅キャンペーンや小学生向け動画作成を行う。 ②通学路に目を向け、安全について取り組んだ。これまでの事故等の情報をもとに、現地へ赴き、ドライバーの視点から見つめ直して対策を考えるなどした。小学校6年生への発信に向け、準備を進めている。	A	自転車通学が多い本校において、交通安全の徹底は、命に直結する重大な案件である。生徒一人ひとりの安全意識とスキルを高めるためには、繰り返しの指導とともに、生徒が「自分事」と捉えられるよう、主体的に活動したり探求したりしながら身に着ける工夫を、引き続き行う必要がある。	・美園中の課題である安全な登下校について、校内の取組に留まることなく、生徒が小学校に対しても発信するなど、地域を取り入れた安全・安心への体制強化が素晴らしい。 ・安全意識の向上には、繰り返しの指導が大切だと考えるので、継続的に取り組んでほしい。	
3	(現状) ○昨年度から始まった「学校運営協議会」において、「安全・安心」をテーマとした本校の課題を共有し、熟議を通して今後の方策等について活発に意見交換することができた。 ○コロナにより途切れていたPTA活動が再開し始め、連携体制が復活している。 (課題) ○広く周知を図る、積極的な情報発信が求められる。	・通学路について保護者や地域とともに考える場の設定 ・学校での取組の積極的な情報発信	①学校運営協議会において、本校の現用や課題を共有し、改善の方向性を見出す熟議を行う。 ②学校運営協議会やPTA、地域等による「通学路検討委員会」を開催する。	①学校評価保護者アンケートの「学校公開」における数値が向上しているか。 ②アンケートや事案等に、専門職が関わるシステムが構築されたか。	①学校運営協議会において本校の「安全・安心」について共通理解を図り、熟議を深めることができたか。 ②「通学路検討委員会」を発足することができたか。	A	①警察やPTA会長を招聘してご意見をお伺いするなど熟議を深めることができた。 ②「通学路検討委員会」による協議に留まらず皆様のご協力により次年度より新通学路を開通することができる見通しとなった。	①学校公開を増やし、進路保護者説明会を全学年に公開するなどして、学校評価は9ポイント向上した。 ②学校ホームページの各ページを整え、保護者がパスワードを入力することで学校配付の手紙を見られるようにした。学校評価は、A評価が7ポイント向上した。	①地域協力のもと、新規通学路を開拓できたことは画期的で素晴らしい取組であった。 ・多くの人に関わってもらい、学校に対して関心をもってもらうことはとても大切であるので、今後も学校のことを知ってもらう機会を増やしてほしい。 ・学校ホームページを積極的に利用し、情報発信を積極的に行ってほしい
4	(現状) ○令和4年度は、「主体的・対話的で深い学びを通じた教科等横断的な探求的学習指導の研究～実社会で新しい価値を生み出すことのできる生徒の育成」という研究主題のもと、を掲げ、各教科及び昨年度から始まった「STEAMS TIME」について研究を深めた。 ○エバンジェリストやICT支援員と連携し、タブレットの活用等について個別のスキルを積極的に高めた。 (課題) ○新学習指導要領や「GIGAスクール構想」、「アクティブラーニング型授業」等の主旨に基づく、効果的なICTの活用が求められる。	・ICTの効果的活用 ・「教師が教える授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への推進 ・人事評価を活用した「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の推進	①エバンジェリストを軸としたICT活用の推進と教職員個に応じたスキルアップを実施する。 ②隔週木曜日に「研修推進委員会」を実施し、市教委による学力向上カウンセラーの受講や各教科における指導と評価の在り方、「STEAMS TIME」の系統性等について推進する。 ③今年度より始まった研修の在り方について人事評価時に確認するとともに、教職員個々の研修を深める。	①各教科等において、ICTを効果的に活用した授業実践を行うことができたか。 ②「研修推進委員会」が定期的に開催され、意見を吸い上げたり取組を発信したりするなど、効果的に機能したか。 ③教職員が、当初面談時に計画した研修に取り組む、資質向上に努めることができたか。	①各教科等において、一人一台端末を活用した授業展開やICTを活用した資料提示などを実践することができた。 ②「研究推進委員会」において、定期テストを軸とした評価の在り方や、「STEAMS TIME」の3年間の系統性や各教科等との関連性について協議し、本校が目指す学びの姿を明らかにしながら推進した。 ③今年2回の人事評価に係る面談において、「キャリア振り返りシート」を活用して教職員一人ひとりの現在地や今後の展望等について協議した。今年度から始まった取組について、意識を共有することができた。	B	新学習指導要領、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の活用、「STEAMS TIME」など、新しい教育活動への取組が求められる中、教員研修の一層の充実による資質向上は必須である。一方で、働き方改革が求められることを踏まえ、有用性と効率化の両方を兼ね揃えたICTの活用や、本校生徒の実態に即した重点化などが重要となる。教職員の教科による専門性や各校務分掌からの視点等、教職員も主体性を大切にして意見を出し合い、学び合う教職員集団を目指し続けたい。	・生徒一人ひとりに目を向けた新しい学習スタイルの確立に向けて頑張してほしい。 ・部活動を学校から分離するくらい大胆なことをやってみてほしいかがか。 ・先生方が日々努力している姿が見られ、エールを送りたい。 ・地域としてできることを、今後も続けていきたい。	

学校運営協議会による評価
実施日令和6年2月16日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等

